202０年度　事業報告

総括　：　２０２０年度は国のパイロット事業（ステップハウスの開設、ＷＡＣＣＡにおけるDＶ被害女性と子どもへの中長期支援事業）への取り組みに加えて、コロナという災害状況下で、困難を抱える女性と子どもを対象により幅広い支援を行った。平時からの支援のノウハウを活かしてスタッフ・ボランティアがほんとうによく頑張った年であった。居場所を失う女性たちの増加に対応するために、シェルターの拡充や行政からの委託による夜間の電話相談事業等なども行ったが、多くの新旧のスタッフの応援を得ることで実施できたことを感謝している。多忙な支援活動の一方では、団体の基盤強化事業にも継続して取り組み、事業の見直しや会議の持ち方や運営体制の刷新、ファンドレイジングへの取り組み等も行った。新たに２０代、３０代のスタッフも雇用できたことで、多様な年代が活動する層の厚い団体となり、活動の継承に明るい展望を持てるようになった。コロナ禍における女性の状況が、２６年前の震災の状況と非常に重なって感じられ、大きな要因であるジェンダー不平等が未だに改善されていないことに愕然としているが、過去と異なる点は、少なくとも、孤立や貧困、暴力にさらされている女性の困難に社会や国が少しずつ目を向け始めていること、支援の手が差し伸べられつつあることだ。今年度、当団体への寄付の多さから、日頃の活動の必要性や意義がようやく社会に認識された年でもあったと思う。（正井）

（★は新規事業）

1. ＤＶ等の被害に苦しむ女性と子どものための相談・支援
2. 各種相談

電話相談　　サポートライン　月水金　10:00～16:00　　５４９件　内　居住相談　８２件

携帯電話（正井・三野）　延べ１５００本　　シェルター滞在者　　DV相談　　その他の相談に分けて集計する
面接相談　　一般相談　　１５８件　　内居住面談　　４５件

★メール相談　　　353　件

LINE電話相談　　５　　　件

シェルター入居　現在シェルター　２部屋　４家族入居可能

　おとな　　２１　人　　子ども　２２人　　延べ滞在日数　　859日　（子どもの滞在日数を加えた）

1. ★　ステップハウス事業

大人　４　人　　　子ども　０　人　延滞在日数464日

大人　６人　子ども１２人　　延滞在日数　　268日

1. 居住支援　（　２０２０　年８　月～　２０２１年１月国交省事業）

相談　８２　件　内面談　4５件　同行支援　１１件　　成約　３４件　　入居後支援　　１５件

1. 同行支援　　１９６　件　内居住に関する支援　　１１件

　主な同行先　警察　病院　役所（生活保護課）　弁護士事務所　　裁判所　不動産屋　家探し内覧　　買い物

1. 県からの委託によるシェルターの利用者　5件

●成果と課題

コロナの影響によるDVの増加を予測し、昨年４月から電話相談に加えてメール相談を開設したが、メールによる相談も多く、幅広い支援の窓口に対応できたことはよかった。スタッフもボランティアも心をひとつにして、なんとかこの難局を支え続けた１年だったと思う。

２０１９年に居住支援法人の資格を取得してから、家さがしの相談が増えている。特にコロナの影響からか、２０２０年の８月以降、居住相談が増加しており、その全てが深刻なDV被害女性からの相談である。ヨーロッパ諸国では、DV被害女性がSOSを出したら、自治体が安全な住居を提供する制度ができている。日本では公営のシェルターに保護された女性の場合は、離婚していなくても公営住宅に入居できる制度があるが民間シェルタ―では認められない。実際の支援に役立つよう制度の改善を提言してきたい。

昨年４月から国のパイロット事業としてステップハウスを開設、シェルターも１か所増設し、３カ所のシェルタ―の運営を行った。危険度を慎重に確認したうえで、本人が希望される場合は、シェルターから職場や学校に通うケースもあった。海外でのシェルターでは、場所の秘匿以外は利用者にルールはないというところが多く、退所時期も当事者が決定するとのこと。今後、当団体も当事者の意思を尊重し、当たり前の暮らしができるシェルターをめざしたい。そのためには、コミュニティの理解と支援、ジェンダー平等が不可欠であり、

ジェンダー平等を実現するための取り組みも地道に行っていく必要性を感じている。

1. 女性や子どもに対する暴力をなくす活動
2. デートＤＶ防止事業

コロナ禍で授業の実施が心配されたが、オンラインや寸劇を録画するなど工夫される学校もあり、予定よりも多く実施することが出来た。今年度はスライドの改定や挿絵をリニューアルし、とても好評だった。

コロナの影響でオンラインで授業を実施することもあった。

実績　中学校　2５　校　　高校　　2３　校　大学・専門学校　　11校　　総数９９９６人　　前年度の３割減であるが、コロナ禍での実施は、学校側の努力や講師の皆様の熱意があって実施できたことで、感謝している。

②デートDVトレーナー養成オンライン講座　2021年　11月21日22日　参加15名

③ボランティア養成オンライン講座　　２０２１年２月実施　参加者２８人　　　ボランティア希望者６人

④企業向けＤＶ防止オンラインセミナー　２社で実施。ネスレ神戸本社　６人　コープこうべ　　２５人

●課題　コロナ禍でも、授業が実施できた学校がありほっとしている。他の講座は全てオンラインで実施したことで、参加者は広がったが、実際に当団体で活動してくれる人材の育成という点では残念だった。・

企業向けの講座は、ジェンダー平等が叫ばれるなかで、今後も積極的に取り組んでいくことで、企業の意識改革と、企業の活動支援に繋げていきたい。

3　シングルマザーや子どもたち、女性たちの居場所・生活再建事業

　★①(新規)ＷＡＣＣＡ♭（ふらっと）交流拠点　開設

来所　　１７４件

　　　　　居場所　９７０名

　　　　　相談　　　１２３件

　　親の学習支援　３３回　１名高卒認定試験合格　日本語学習

　　食料支援　フードパントリー２０回（２００名）食糧支援

●成果と課題

　　昨年、コロナ緊急事態宣言が発出され、わっかに繋がっていた方々に「ＷＡＣＣＡエール便」を発送した。

発送したことでお返事のメールなどが寄せられシングルマザーの置かれている状況などを把握することができ、連絡の途絶えていた方々とも繋がることができた。エール便をしたことが後の、パントリーをするきっかけとなり、食料支援を通して来所される方々の声を聴く事で必要な支援につなぐ事ができている。

居場所では「何気ない会話」の中から心配事など話され、必要に応じて専門相談に繋いだり、他の利用者と交流することで情報交換の場にもなっている。大人の学習支援では自立に向けての一歩に繋がっている。

昼間の利用者が少しずつではあるが増えてきている。コロナ禍の中、シングルマザーのイベントなどの開催が難しい。

★②ＷＡＣＣＡ+(ぷらす)相談事業

居場所事業　ＤＶ被害者等生きづらさを抱えた居場所の開設運営

　　弁護士、精神科医、キャリアコンサルタントなどの専門家に加え、スタッフなどの相談事業を行った。

　　　法律相談　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　24件

女性の悩み相談　　　　　　　　　　　　　　　　　　　36件

　　　オープンダイアローグ(リフレクティング)　54件

　　　女性のからだ相談　　　　　　　　　　　　　　　　3件

　　　キャリア相談　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1４件

電話・Line・メール　　　　　　　　　　　　　　　　　　２９件

その他相談　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　６０件

　自助　オリーブの会　　　　　　　　　　　　　　　１１人

　子どもカウンセリング　　　　　　　　　　　　　　　子ども6人(10回)

　●成果と課題：　従来の相談を継続しつつ、法律相談の場をＷＡＣＣＡに移したこと、元精神科医や保育士などの協力を得て、オープンダイアローグ(リフレクティングの手法による)を実施した。従来の個人面談とは違い、複数でフラットなかかわりを持つことから、話しやすいと、連続のセッションを希望される方も多い。

また、SNSやメールでの相談も登録制で行った。夜不安になるとか、緊急事態の解消など不安軽減には役に立った。しかし、対応する人が限られているため、できるだけ、対面や個人の相談へとつなげた。

③居場所事業　ＤＶ被害者等生きづらさを抱えた居場所の開設運営

週1回程度女性たちが集まって、軽作業などの社会に向けた活動（ボランティアの日）延べ１０７名

読書会、おしゃべり会など、人が集いエンパワメントできる場を作る　　　　延べ１１４名

●成果と課題

様々な生きづらさを抱えた女性たちが孤立や孤独感を解消し、お互いの立場を思いやる雰囲気ができてきた。わっかに継続してくるだけでも生活に張りができると話していた人もいた。また新年度から就職が決まり働き始める人もいた。

1. 学習支援支援ＷＡＣＣＡ塾

　学習支援の継続実施　学校での授業理解など基礎的な学ぶ力をつける学習をボランティアの見守りと

支援で行った。

　　　小学生　471名

　　　中学生1186名

　　　ボランティア　788名

　　ボランティア同士の交流学びの機会

　　　ボランティア研修　2月27日（土）19：00～21：00（zoomで開催）　ボランティア・スタッフ19名

　　　生徒とボランティアの交流「大学ってどんなとこ？」　3月16日（火）　18：00～19：30

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　中学生8名・大人13名

　　　新型コロナ禍の中での子どもたちへ、聞き取り調査(別途報告書にまとめる)

1. 母と子どもの体験交流事業

　7月19日　　シングルマザークッキング＆子どもたちの実験教室

8月5日　　実験教室

10月11日　　リンゴ狩り

11月18日　　親子で忍者

12月12日　　クリスマスプレゼントお渡し

●成果と課題

コロナ禍の中で、集まってのイベントを計画実施することの難しさを実感した。当初予定していた泊合宿やバーベキュー大会などは中止せざるを得なかった。そこで工夫を凝らして、なるべく密にならないようにしながら楽しいイベントも実施することができた。親子だけで煮詰まりそうな日常を楽しい時間を共有することができた。

1. 家庭訪問事業　神戸市内　　月２回　10　世帯　　　　兵庫県内　月２回　４世帯

4　組織基盤強化事業

DV被害を受けた女性と子どもの切れ目のない中長期支援の構築を目指す

1. ・スタッフ・ボランティアのスキルアップのための養成講座の開催　全６回

第1回　6・27スタッフボランティアスキルアップ講座　講師増井香名子　ZOOM講座

　　「DV被害者相談の実際①～~子どものいるDV家庭のDVと虐待の介入と支援の論点整理」　２０名

第2回　7・12スタッフボランティアスキルアップ講座　講師杉山伸子　ZOOM講座

　　　　「女性の健康に配慮した支援で求められること」　　参加者　15　名

第3回　8･2スタッフボランティアスキルアップ講座　講師増井香名子賀名子　　　　ZOOM講座

　　　　DV/虐待の親と子のアセスメント・カンファレンス　　　参加者　21名

第4回　9.19スタッフボランティアスキルアップ講座　講師奥見弁護士　ZOOM講座 参加者　14名

第5回　9.21･22スタッフボランティアスキルアップ講座　講師　湯前知子　和泉友子

　　夫・恋人からの暴力を経験した女性のサポートグループ・ファイシリテーター養成講座　参加者　20名

　　　この講座をもとに実際にサポートグループを５月から開催予定。

第6回　11･25スタッフボランティアスキルアップ講座　講師　大阪経済大学　金子啓子

　　　　個人情報保護の組織的対応　～信頼を継続するために～　　　参加者15名

　　　　個人情報についての講座により、実際の活動の中で個人情報を扱うことが多いことから

　　　　共通の理解を得るために対面での講座を行った。

1. 社会保険労務士による相談　(村上)　雇用契約、就業規則の見直しなどについてアドバイスを得て、新たな就業規則を作成した。
2. 相談・支援内容についてのデータ入力（試行期間）

　キントーンによる相談データのフォーマット作成・入力　(鈴木・橋本)

④　運営体制の刷新と団体の魅力を再発見する事業

Panasonic NPO/NGOサポートファンドfor SDGsの継続助成（2020年1月～12月）を受けて、将来に向けた当団体のあるべき姿を、スタッフを含めメンバー全体で実施していくことができるよう「働き甲斐、関わり甲斐の高いNPOを目指し、運営体制の刷新と団体の魅力を再発見する事業」をテーマとして取り組んだ（取組み１：組織体制及び運営方法の刷新、取組み２：団体の存在価値の再発見、取組み３：団体の５か年計画〈ロイヤリティレイジング戦略〉の策定）。

基盤強化会議を定期的に開催し、昨年度の結果と課題の共有からスタートし、新規予定事業の位置づけと人員体制検討、職員／ボランティアの役割明確化の議論、事業の位置づけと今年度計画、人員配置（中堅職員の登用）・役割分担、運営委員会での意思決定と理事会への伝達、と組織運営の基本となる事項について、会議での議論と整理を進めた。また、基本的なルールや規程の整備として、運営基本規程、決裁規程、就業規則の各案の作成を行った。職員・ボランティアを対象に、e-NPS（Employee Net Promoter Score：

従業員のロイヤルティ＝職場に対する愛着・信頼の度合いを数値化する指標）のアンケートを行い、組織内部の魅力、働き甲斐、改善点などを見出すことができた。

●成果と課題

〇事業を見直す中で、新型コロナの影響で新たに必要となった臨時支援事業や新規補助・委託事業にも柔軟に対応することができた。（

内閣府：DV相談＋、神戸市：ひとり親家庭交流拠点、夜間電話相談など　兵庫県:DV被害者等専門的相談支援事業及び総合的支援事業等）

〇基盤強化会議メンバーに外部メンバーに参加してもらうことで、客観的な意見をもらえた。e-NPSの調査結果に対するコメントや、ウィメンズネット・こうべの組織・事業の全体像と支援の分析からは今後の取組みへのヒントも得られた。

〇ファンドレイジングについては、新型コロナの影響で、寄付をしてくださる団体や個人も増加している。新型コロナ禍での活動を可視化し、団体の意義をアピールすることの。それに対応できる寄付を含めた戦略が必要であると感じている。

⑤ファンドレイジングへの取組みを充実させる

　団体の経済的基盤を図り、スタッフの安定的雇用による人材の確保、世代交代を可能にすることが緊急課題との認識のもと、会員や寄付者を増やす努力を、以下を通して行った。

・認定NPO法人の更新

・京都のファッション企業であるJAMMIＮさんとのコラボでＴシャツのデザインを制作し、販売の一部を寄付としていただくことができた。目標額　　２５万　　実績１７万円になった。　新たなつながりができてよかった。

・神戸市のふるさと納税を活用した取組み「DV被害を受けている女性と子どもたちに救いの手を！（目標金額300万円を達成した）

・ギブワンやSOLIO（ソリオ）など、他団体のプラットフォームを活用した寄付募集と活動レポートの情報発信（<https://giveone.net/index.html>　<https://solio.me/>）

・「遺産相続」募集のパンフレットへの記載など

・ファンドレイジング戦略・施策・実施体制の策定、および実施支援、ファンドレイジングに係る広報戦略・施策の策定と実施、ツールの整備、事務局業務改善に係るコンサルティング、労務人事体系に係るコンサルティングを進めることを目的に、FIL財団の助成金を申請し、採択された（300万円）。2021年度から実施する。

５．組織運営

＜会議の開催報告＞

・総会の開催：2020年5月30日（土）　zoomによるオンライン会議で開催

・臨時総会の開催：2020年9月6日（日）１０時～１２時

認定法人資格更新にあたり、9月に神戸市の監査があり、いくつかの問題点を指摘されたが、事務局の

努力でなんとか難関を乗り切ることが出来た。これを教訓に、労務管理や事務処理の改善を図ることが

急務であると再確認することが出来て、10月以降の事務局体制の見直しを始めている。

・運営委員会の開催：2020年4月から2021年3月、毎月第一木曜　開催

　コロナで忙しく　理事会は開催できなかったが、月1回の運営会議を開催し、

　河合さんにも参加していただくことで、組織運営の改善に取り組んだ。

＜会員数・寄付者数＞（2021年3月31日時点）

正会員：２７名、賛助会員：６０名、寄付者数：２８３名

＜組織体制＞

理事：8名、監事1名、スタッフ：19名、ボランティア：30名

協力団体・協力者

認定NPO法人フードバンク関西　　NPO法人フリーヘルプ　　NPO法人すまみらい

認定NPO法人市民活動センター神戸　認定NPO法人CS神戸　認定NPO法人しゃらく

コープこうべ　　日本フィランソロピー協会　　ふじっこ　　国際ソロプチミスト各団体

おてらおやつクラブ　日本善意財団　神戸市社会福祉協議会　ロレアル　カーブス板宿　（株）ロゴナジャパン神戸本社